

公共事業再評価調書

整理番号 H18 - 32

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 5 1
		E - MAIL	doro @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 (10 年)	再評価後 (年)	その他 ()
---------	-----	-------------	-----------	---------

1 事業概要

事業種別	道路事業	事業主体	県 市町村 その他 ()																																																
事業名	地方特定道路建設整備事業	地区名等	清水川滝沢野内線 滝沢 市町村名 青森市																																																
事業方法	国庫補助 県単独 財源・負担区分	国 % 県 100 % 市町村 % その他 %																																																	
採択年度	平成 9 年度 (用地着手 平成 9 年度 / 工事着手 平成 12 年度)																																																		
終了予定年度	平成 23 年度 (平成 年 月 工期変更 当初計画時 平成 年度)																																																		
事業目的	<p>・一般県道清水川滝沢野内線は、平内町清水川地区の一般国道 4 号を起点とし、青森市滝沢地区を經由し、同市野内地区の一般県道久栗坂造道線を終点とする延長約 33.0km の道路である。本路線は、一般国道 4 号の代替機能を持っているが、青森市滝沢地区から平内町大和山地区までの約 8.8km の区間は、未舗装であり、冬期閉鎖区間となっている。また、山間部を通過する区間については、幅員狭小 (Wmin=4.0m)、急カーブ箇所が連続するため、車両通行に支障をきたしている。このため、未整備区間のうち滝沢工区約 2.0km について、3 種 4 級、設計速度 40km/h の規格で現道拡幅として事業を実施している。</p>																																																		
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>当初計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画延長</td> <td>2,000 m</td> <td>2,000 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>計画幅員</td> <td>6.0(9.0) m</td> <td>6.0(9.0) m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>改良工</td> <td>2,000 m</td> <td>2,000 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>18,200 m</td> <td>18,200 m</td> <td>0 m</td> </tr> </tbody> </table> <p>・事業計画については、当初計画時と比較して変更はない。</p>			区 分	当初計画時	再評価時	増 減	計画延長	2,000 m	2,000 m	0 m	計画幅員	6.0(9.0) m	6.0(9.0) m	0 m	改良工	2,000 m	2,000 m	0 m	舗装工	18,200 m	18,200 m	0 m																												
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																																																
計画延長	2,000 m	2,000 m	0 m																																																
計画幅員	6.0(9.0) m	6.0(9.0) m	0 m																																																
改良工	2,000 m	2,000 m	0 m																																																
舗装工	18,200 m	18,200 m	0 m																																																
事業費	<p>当初計画時総事業費 890 百万円 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>～ 15 年度</th> <th>16 年度</th> <th>17 年度</th> <th>18 年度</th> <th>小 計</th> <th>19 年度～</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>593</td> <td>297</td> <td>890</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>(16)</td> <td>(8)</td> <td>(24)</td> </tr> <tr> <td>年 月変更</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>144</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>144</td> <td>746</td> <td>890</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>(24)</td> <td>(0)</td> <td>(0)</td> <td>(0)</td> <td>(24)</td> <td>(0)</td> <td>(24)</td> </tr> </tbody> </table>				～ 15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	小 計	19 年度～	合 計	計 画					593	297	890	(うち用地費)	()	()	()	()	(16)	(8)	(24)	年 月変更								実 績	144	0	0	0	144	746	890	(うち用地費)	(24)	(0)	(0)	(0)	(24)	(0)	(24)
	～ 15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	小 計	19 年度～	合 計																																												
計 画					593	297	890																																												
(うち用地費)	()	()	()	()	(16)	(8)	(24)																																												
年 月変更																																																			
実 績	144	0	0	0	144	746	890																																												
(うち用地費)	(24)	(0)	(0)	(0)	(24)	(0)	(24)																																												

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

A ・ (B) ・ C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
			16.2 % [/]	24.3 % [/]
			(100 %) [/]	(150 %) [/]
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 (637 百万円)	5.7 %	8.5 %
	舗装工 (93 百万円)	0 %	0 %	
	(百万円)	%	%	
説 明	<p>・これまでに用地取得は完了しており、工事については、起点部約 300m を改良済みであるが、県財政の悪化状況の中平成 16 年度以降予算確保が出来ず、保留状況が続く整備促進に至っていない。</p>			
問題点・解決見込み	<p>事業の優先性や進捗率、残事業費が多額 (746 百万円) であることを考慮すると完成までには長期間を要することが見込まれる。当区間の完成により、路線全体の整備効果が大きく前進するとは考えがたい。</p>			
事業効果 発現状況	<p>・路線全体の整備状況は、平内側約 13.5km、青森側 8.8km が整備済みで生活道路として機能は図られている。</p>			

(2) 社会経済情勢の変化

A ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>[全国の評価]</p> <p>・平成15年10月に閣議決定された「社会資本整備重点計画」では、道路整備事業について、透明性の高い、効果的かつ効率的な道路整備を推進し、社会・経済の活性化と暮らしの豊かさの向上を図ることとしている。</p>	<p>[県内の評価]</p> <p>公共交通機関が未整備である本県にとって、自動車を主とする交通に頼らざるを得ない状況であるが、県内の道路は未整備区間が多く、さらに豪雪地帯であるため、冬期の安全確保や社会基盤整備としての道路整備に対する要望は多い。</p>	
	当地区における評価	<p>・当該工区を含む山間部を通過する区間は、未改良・未舗装であり、道路利用者の安全性確保及び利便性向上を図るため、平内町より要望が出され整備促進が望まれている。</p>		
必要性	<p>・当該路線は県管理路線であるため、青森県が事業主体となって行う必要がある。</p> <p>・本路線は、一般国道4号の代替機能を持っているが、青森市滝沢地区から平内町大和山地区までの約8.8kmの区間は、未舗装であり、冬期閉鎖区間となっている。また、山地部を通過する区間については、幅員狭小(Wmin=4.0m)、急カーブ箇所が連続するため、車両通行に支障をきたしている。このため、未整備区間について、段階的に整備を進める必要がある。</p>		a ・ b	
適時性	<p>・国道4号の整備も順調に推移し、防災施設の改善が図られつつあり、代替機能の確保の緊急性が低くなっている。</p>		a (b)	
地元の推進体制等	<p>・平成14年度以降平内町からの要望はなく、優先性が低くなっている。</p>		a (b)	
効率性	<p>・当工区を整備したとしても、残る区間約6.8kmの整備には多額の費用を要すること、また、整備を終えても路線としての整備効果は、大きく前進するとは考えがたい。</p>			

(3) 費用対効果分析の要因変化

A ・ B ・ C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1)事業費	- 百万円	807 百万円	- 百万円
	(2)維持修繕費	- 百万円	87 百万円	- 百万円
	(3)	- 百万円	百万円	- 百万円
	(4)	- 百万円	百万円	- 百万円
	(5)	- 百万円	百万円	- 百万円
	総費用	- 百万円	894 百万円	- 百万円
便益項目 (B)	(1)走行時間短縮便益	- 百万円	377 百万円	- 百万円
	(2)走行費用短縮便益	- 百万円	11 百万円	- 百万円
	(3)交通事故減少便益	- 百万円	0 百万円	- 百万円
	(4)	- 百万円	百万円	- 百万円
	(5)	- 百万円	百万円	- 百万円
	総便益	- 百万円	388 百万円	百万円
B / C			0.43	
<p>[費用対効果分析手法] (分析手法、根拠マニュアル等)</p> <p>・公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針 (平成16年2月 国土交通省)</p> <p>・費用便益分析マニュアル (平成15年8月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)</p> <p>[費用対効果分析における特記事項]</p> <p>・県単独事業のため、当初計画時に費用対効果分析は行っていない。</p>				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) ・ B ・ C

コスト縮減	<p>【コスト縮減の検討状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路盤材・舗装合材に再生材を使用し、経費の縮減を図ることとしている。 ・排水施設等の小規模構造物については極力、工場製品を使用し、工期の短縮及び経費の縮減を図っている。 	a . b
代替案	<p>【代替案の検討状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道は、小川目沢沿いに延びており、山地に囲まれていることから、比較ルートは想定されず、実施中の現道拡幅案が最適である。 	a . b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

A ・ (B) ・ C

住民ニーズの把握状況	<p>【住民ニーズの把握方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平内町より整備促進要望が出されていたが、平成14年度以降要望は出されていない。 	<p>【住民ニーズ・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該工区は山地部であることから、利用者も少なく現道は未改良・未舗装であるが、地域住民からは特に早急な整備を求められていない。 	a (b)		
環境影響への配慮	<p>【地域別環境配慮指針への対応】</p> <table border="1"> <tr> <td>地域区分</td> <td>A1c</td> </tr> </table> <p>(1)対応状況 配慮している 配慮していない</p> <p>(2)対応内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の社会生活を支える基盤として、水害等の自然災害の防止に配慮した安全で快適な道路の整備に取り組んでいる。 ・地震災害の防止のため、擁壁等の計画段階において一定規模の地震時でも安全な構造となるよう配慮をしている。 	地域区分	A1c	<p>【開発事業等における環境配慮指針への対応】</p> <p>(1)対応状況 配慮している 配慮していない</p> <p>(2)対応内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事を行う際は、地域の生活環境に配慮し、低排出ガス、低騒音並びに低振動の重機械を使用する。 ・土砂の運搬の際は、土埃の発生を防止するため、適度に散水を行う。 ・表土露出箇所については、景観保全や土砂流出に配慮し、張芝による植生を行う。 	a . b
地域区分	A1c				
地域の立地特性	<ul style="list-style-type: none"> ・当該地区は、特別豪雪地帯、積雪寒冷特別地域に指定されている。 ・11月24日～5月18日まで14.5kmの区間が冬期閉鎖となっている。 				

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続 計画変更 中止 休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・国道4号の代替道路確保の必要性が低くなってきたこと、及び費用対効果が低く整備効果が発現されない状況であること、さらには生活道路としての機能はすでに確保されているということから、対応方針は「中止」とした。
備考	

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	継続 計画変更 中止 休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見	
評価理由	